令和４年９月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第697号

林業福島

No. 697

9
2022

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■森林整備作業中

優良な苗木の安定供給に向けて

福島県農林種苗農業協同組合
代表理事組合長　野　尻　榮　一

福島県農林種苗農業協同組合の業務運営につきましては、日頃よりご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

東日本大震災と原発事故からの復興は、県をはじめ関係者の皆様の懸命な努力と多大なるご支援により着実に進展しており、令和三年度からは、「第二期復興・創生期間」の取り組みが進められております。

本県の森林・林業はいまだ放射性物質の影響が残り、森林整備の推進、木材産業や特用林産物の再生など、様々な課題を有しております。また、戦後造林された人工林は利用期を迎えており、本県の豊富な森林資源を「伐って、使って、植えて、育てる」循環利用を推進し、森林の持つ多面的機能の発揮とあわせて林業・木材産業の活性化を図っていく必要があります。

当組合におきましても、森林資源の循環利用の一環である「植えて」「育てる」に貢献していくため、優良種苗の安定的な供給に積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

近年、注目され始めた優良種苗の一つとして特定母樹が有り、これまで県においてはスギ特定母樹の採種園を整備してきました。当組合はその採種園から生産された種子を購入し、組合員が二年をかけて大切に育苗してきた特定苗木（特定母樹由来の苗木）について今年の春から出荷を始めました。特定苗木は、一般的なスギと比べ、成長量は約一・五倍、花粉の量は概ね半分以下という特徴を持っていることから、育林コストの低減、森林の炭素固定量の増加や花粉発生量の抑制対策等、日本の森林・林業が抱いている課題を解決し、効率的な「植えて」「育てる」への貢献が大きく期待されています。来年度以降も、組合員が一丸になって特定苗木の品質の向上と安定供給に努めてまいります。

また、県から特定増殖事業者としての認定を受け、国の補助事業を活用してスギ特定母樹採種園を会津地方と浜通り地方で整備を計画しております。秋から会津地方での採種園整備を開始して、県の種子生産体制を補完し、優良種苗の安定供給をめざすこととしております。

当組合といたしましては、関係機関・団体と連携を強化し、特定苗木の種子の生産から優良な苗木の安定供給をとおして、森林資源の循環利用への貢献と、森林の有する多面的機能の高度発揮、地域の活性化に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。

皆様の一層のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

《もくじ》

とびら
優良な苗木の安定供給に向けて
　福島県農林種苗農業協同組合
　　代表理事組合長　野　尻　榮　一 …1
第48回福島県緑の少年団大会、3年ぶりの開催 …2
県政コーナー
　福島県における県産材利用推進について
　……3～4
令和４年度安全衛生研修会を開催しました…5
第40回福島県治山林道研究発表会について…6
林業アカデミーふくしま研修日誌④……7
普及指導員通信……8
森連だより……9
きのこセンターだより……10
木の文化を育む㊷……11
木材市況・ふくしま東西南北……12
はなしのひろば・お知らせコーナー……13

第48回福島県緑の少年団大会、3年ぶりの開催

公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会 緑化推進局

令和四年七月二五日(月)、大玉村農村環境改善センターにおいて、第四八回福島県緑の少年団大会を開催しました。昨年、一昨年と新型コロナウイルス感染拡大や台風の影響などを考慮し開催を中止していたため、今回の開催は三年ぶりの開催となりました

本大会は、県内の緑の少年団が一堂に集まり、これまでの緑化活動の実績の発表や交流活動を通して相互に友情と連帯を深め、豊かな人間性と奉仕の精神を培うとともに、緑を愛し、守り、育てる心を養うことを目的に開催するもので、県内少年団十一団約一〇〇名、参加者全体で約一四〇名が大会に参加しました。

式典は、当協会小檜山善継会長の主催者挨拶から始まり、柳田範久福島県農林水産部次長（県知事代理）、菅野昭裕大玉村産業建設部長（村長代理）から来賓祝辞、第四三回福島県緑の少年団活動コンクールの表彰式（受賞団は当協会ホームページに掲載）、県知事賞を受賞した会津若松市立大戸小学校緑の少年団による活動発表、地元少年団（大山小、玉井小）による誓いの言葉の順に執り行いました。

なお、県知事賞受賞の大戸小学校緑の少年団は、今年度「全国緑の少年団活動発表大会」に推薦したところ、みどりの奨励賞（全国緑の少年団連盟会長賞）を受賞し、七月三一日～八月一日に行われた「２０２２緑の少年団交流大会in北海道（道民の森）」において表彰されました。

午後は、会場をふくしま県民の森（同村）に移し、昼食をはさんでＮＰＯ法人福島県もりの案内人の会の方たちの指導のもと、少年団は二班に分かれて自然観察や木工クラフトの交流活動を行いました。

自然観察では、県民の森の中を散策しながら、草木や生き物など自然について学び、木工クラフトでは、県民の森内にある森林学習館において、ヒノキ材を使った箸づくりや輪切り木材などを使ったブンブンゴマやペンダントづくりを体験しました。

今回、行動制限がない中、コロナの感染対策を講じた上で来賓の方々の出席を縮小するなど規模を縮小して大会を実施しましたが、今後とも緑の少年団が継続して、より一層活動に取り組めますよう支援してまいります。

式典の様子

表彰式

自然観察

木工クラフト

●今大会参加少年団

石田みどりの少年団
（伊達市立石田小学校）

中郷小学校緑の少年団（三春町）

会津若松市立大戸小学校緑の少年団

会津若松市立川南小学校
「ホタルの里」緑の少年団

喜多方市立第一小学校みどりの少年団

猪苗代町立緑小学校緑の少年団

磐梯第二小学校緑の少年団

なみえ創成小学校緑の少年団

綴秋山みどりの少年団
（いわき市立綴小学校）

大山小学校緑の少年団（大玉村）

大玉村立玉井小学校緑の少年団

県政コーナー

福島県における県産材利用推進について

福島県林業振興課

福島県における県産材の利用については、平成二二年十月一日付けで施行された公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律（以下「公共建築物等木材利用促進法」という。）及び公共建築物における木材の利用の促進に関する基本方針に即して、平成二三年七月に策定したふくしま県産材利用推進方針により推進を図ってきましたが、公共建築物等木材利用促進法が令和三年十月一日付けで脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律（以下「都市の木造化推進法」という。）に改正されたことに伴い、新たに建築物における木材利用の促進に関する基本方針（以下「国の基本方針」という。）が策定されました。そのため、令和四年四月十八日付けでふくしま県産材利用推進方針を改正し、公共建築物における県産材利用推進をはじめ、民間建築物を含む建築物一般での県産材利用促進に取り組むこととしましたので、その内容について紹介します。

一　都市の木造化推進法の概要

公共建築物等木材利用促進法の施行後、低層の公共建築物を中心に木造化が図られてきたところですが、耐震・耐火性能の技術革新や建築基準の合理化により、木材利用の可能性は拡大し、都市部において、先導的な取組として中高層木造建築物の建設が進められています。

これらを背景として、公共建築物等木材利用促進法が令和三年十月一日付けで都市の木造化推進法に改正されました。

【主な改正内容】

①法の目的に「脱炭素社会の実現に資すること」が追加されました。

②対象が「公共建築物」から「建築物一般」に拡大されました。

③国・地方公共団体と事業者等による建築物における木材利用促進のための協定制度が創設されました。

④強度等に優れた建築用木材の製造技術の開発・普及の促進等が追加されました。

二　ふくしま県産材利用推進方針改正の概要

都市の木造化推進法及び国の基本方針に即して、ふくしま県産材利用推進方針を次のとおり改正しました。

①木材利用による脱炭素社会の実現、ＳＤＧｓへの貢献

森林は、県土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、公衆の保健、地球温暖化防止、林産物の供給等の多面的な機能の発揮を通じて、県民生活及び県民経済の安定に重要な役割を担っており、森林の適正な整備及び保全を図ることにより、これらの森林の有する多面的機能が持続的に発揮されることが極めて重要です。

また、森林から生み出される木材は、加工時のエネルギー消費が比較的少なく、利用中は二酸化炭素を長期に貯蔵し、利用後も化石燃料の代替となる木質バイオマスエネルギーとして再利用できる持続可能な資源であり、二〇五〇年カーボンニュートラルの実現や持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指す世界共通の目標であるＳＤＧｓの達成に貢献する資材であることから、その内容について方針の趣旨に追加しました。

②建築物木材利用促進協定の推進

ふくしま県産材利用推進方針の対象建築物を「公共建築物」から「建築物一般」に拡大したことに伴い、民間建築物を含む建築物一般における木材利用を促進するため、建築物木材利用促進協定の締結を推進することとしました。

③建築物等の技術開発に対する支援

中高層建築物の木造化等を促進するため、強度や耐火性能等に優れた建築用木材等の技術開発に対する支援を行うこととしました。

④県有施設における県産材利用を更に推進するための木造化、木質化及び県産材利用の検討方法の見直し

県が整備するすべての建築物を対象に原則として木造化などの木材利用が図られるよう、施設ごとに基本構想等の段階で関係課で検討を実施することとしました。

また、木造化、木質化及び木質バイオマスエネルギー利用を行う際は、原則として県産材を利用するこ

とともしました。

⑤県産材の安定供給体制の強化

建築物等における県産材の利用促進を図るため、素材（丸太）生産業者、木材市場、製材工場等を対象としたサプライチェーンの構築を支援することとしました。

また、林業や木材産業などの関係者で構成する福島県木材流通対策協議会により、県産材の需給動向や価格動向等を協議し、関係団体との連携を強化することとしました。

⑥県民への普及啓発方法の見直し

県民が木と触れ合う機会を創出し、木育を推進することとしました。

三　終わりに

木材は二〇五〇年カーボンニュートラルの実現やＳＤＧｓの達成に貢献するなど、環境貢献度の高いサステナブルな資材であるとともに、断熱性、調湿性等に優れ、紫外線を吸収する効果や衝撃を緩和する効果が高いなどの性質を有しており、木の香りで人をリラックスさせたり、木の印象が建物への愛着や誇りを高めたり、集中力を高めるなど心理面・身体面・学習面等での効果も期待されることから、快適な生活空間の形成に貢献する資材でもあります。

さらに、使用する木材を県産材とすることにより、丸太、木材の運搬距離が短縮され、二酸化炭素の排出量のさらなる低減に期待できるほか、県内の森林整備が促進され、県内の森林の循環利用が可能となります。

県は、ふくしま県産材利用推進方針に基づき、公共建築物における県産材の利用推進や民間建築物を含む建築物一般における県産材の利用促進等に取り組んでまいりますので、県民の皆様におかれましても、積極的な県産材利用に御協力をよろしくお願いします。

H31.３竣工
福島県立ふたば未来学園（手前３棟が木造構造）

H31.３竣工
福島県立ふたば未来学園内装

Ｒ２.３竣工
須賀川土木事務所（RC+木造の混構造）

Ｒ２.３竣工
須賀川土木事務所内装

Ｒ２.10竣工
復興公営住宅整備_南相馬市南町集会所

Ｒ２.10竣工
復興公営住宅整備_南相馬市南町集会所内装

令和四年度安全衛生研修会を開催しました

福島県森林土木建設業協会

福島県森林土木建設業協会は令和四年七月二五日、福島テルサにおいて令和四年度安全衛生研修会を開催しました。

今年度の事業にすぐにでも取り入れられるよう、例年より早期に開催したものです。

今年度は、労働安全研修として、労働災害の発生を防止するため、森林土木事業における労働安全対策に関する規制等についてあらためて確認し、また、産業保健研修として、中高年齢従事者の多い建設業における生活習慣病の予防について学びました。

今回の研修会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が危ぶまれる時期での開催となってしまいましたが、会員企業の管理監督者、人事・労務管理者等二〇名が受講し、（一社）全国土木施工管理技師会連合会の継続学習制度（ＣＰＤＳ）の認定を受け受講証明書を発行しました。

日々の仕事や生活に直結する講義内容で、大変有意義な研修となりました。

石川俊幸会長あいさつ

研修会の様子

〈労働安全研修〉
『森林土木工事業における労働災害の発生状況と安全対策の規制』

講師　福島労働局労働基準部健康安全課
安全衛生係長　千葉　光平 氏

福島県における労働災害の発生状況は、新型コロナウイルス感染症の職場内感染も含まれてはいますが、死傷者数でも発生件数でも令和二年度から増加傾向にあります。労働災害全体の二割以上を占める墜落・転倒を防止するため、はしごや脚立の適切な使用、ヘルメットの着用、墜落制止用器具の買い換え等について留意してください。

加えて、この時期における熱中症対策、法令改正により義務化された一人親方等に対する保護措置にも注意してください。

労働安全研修　千葉　光平 講師

〈産業保健研修〉
『生活習慣病の予防 ～元気に働き続けるために～』

講師　福島市保健所保健予防課検診予防係
保健師　谷ヶ城莉佳 氏

生活習慣病とは生活習慣の乱れや偏りが関連する病気の全般のことで、代表的な病気としてはがん、脳血管疾患、心筋梗塞、糖尿病などが挙げられます。生活習慣病は重症化するまでは自覚症状がないので、年一回の「健診」は重要です。

生活習慣病の予防のためには、健康の三本柱～食事、運動、休養～のバランスが大事です。社員の皆さんの「健診」結果も参考にして、一日の多くの時間を過ごす職場での取組、〝団体戦〟だからこそできる健康づくりを考えてみましょう。

産業保健研修　谷ヶ城莉佳 講師

第40回福島県治山林道研究発表会について

福島県森林整備課・森林保全課

１　はじめに

福島県では、治山・林道等森林土木業務の研究・情報・体験等の発表や意見交換等を通じて職員の技術の向上を図り、森林土木事業の発展に寄与することを目的として、標記発表会を開催しました。

主催者あいさつ

２　発表会について

発表会は、令和４年７月27日(水)に福島市のキョウワグループ・テルサホール（福島テルサ）で開催しました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、発表者と審査員のみによる開催とし、発表状況をWeb会議システムの活用により各農林事務所へオンラインで配信しました。発表は、治山部門４件、林道部門４件の計８件ありました。

３　発表内容

発表内容及び審査結果は次のとおりです。

No.	所　　属	氏　名	区分	題　　名
1	森林整備課	粂川　隼人	林道	森林GISに登載した林道データの活用状況と課題
2	会津農林事務所	渡部はるか	治山	地すべり崩壊地　野辺沢山地区について～概成への10年の歩み～
3	南会津農林事務所	阿部　正幸	林道	林道舗装における表層工の比較・検証について
4	南会津農林事務所	吉井　順平	治山	南会津農林事務所管内における魚道付き治山ダムの現状と維持管理について
5	いわき農林事務所	渡辺真紀夫	林道	高密路網重点整備事業実施地区「いわき三和中部地区」の現在
6	森林保全課	小野　航太	治山	海岸防災林におけるＪクレジットを活用した管理手法の検討
7	県北農林事務所	加藤　　修	林道	県北農林事務所における令和元年東日本台風災による林道施設災害復旧について
8	県南農林事務所	吉岡　圭太	治山	治山事業計画の調査等の省力化について

審査員14名による厳正な審査が行われ、その中から、治山・林道それぞれで全国や北海道・東北地区で行われる発表会の推薦者を決定しました。

県南農林事務所の発表

【第62回治山研究発表会へ推薦】
県南農林事務所　　吉岡　圭太

【第57回林道研究発表会へ推薦】
いわき農林事務所　渡辺真紀夫

【第57回北海道・東北地区治山林道研究発表会へ推薦】
森林保全課　　小野　航太
森林整備課　　粂川　隼人

いわき農林事務所の発表

４　おわりに

IT技術を活用した新たな挑戦や長期間にわたる事業効果の検証・事業実績の報告など若手職員を中心に普段の業務における課題や疑問点の解決に向けた取組みや貴重な情報の蓄積となる発表がありました。

当発表会は、第１回目が行われた昭和53年以来、今年で40回を迎え、諸先輩方から引き継いできた森林土木技術の伝承や情報交換の場となってきました。これからも、引き継いだ技術を伝えるとともに、森林土木事業の発展へと繋がる新たな技術を広める場となるよう研鑽に励んでいきたいと思います。

林業アカデミーふくしま研修日誌④

福島県林業研究センター

就業前長期研修四ヶ月目の七月。今月はロープ高所作業の資格取得をはじめ、育林技術を習得すると共に一回目のインターンシップに臨みました。

○七月の研修内容

「間伐」講座では密度管理や選木の方法などの基礎知識を習得しました。この知識は今後、現地で実際に間伐実習を行う際に重要なものとなります。

その後**「玉掛け技能講習」「ロープ高所作業特別教育」「フルハーネス型墜落制止用器具特別教育」**を受講し、無事全員が修了しました。これらは主に架線集材や特殊伐採で活躍する資格です。こうして多くの資格を取得することで、研修生たちは、様々な業務内容や現場条件に対応できる人材として成長していきます。

七月中旬には**「下刈り」「除伐」「つる切り」**の育林技術実習を妙見山実習フィールドで行いました。研修生たちは、下草に隠れた苗木を見つけることの難しさ、斜面で安定して機具を扱うことの難しさ、対象によって使用器具を切り替えることの重要性、暑さ対策の重要性などといった、現場を体感したからこそ得られる課題やノウハウを見いだし、充実した実習となったようです。

「チェーンソー伐木造材技術」では、研修資機材を活用して伐倒、枝払い、丸太合せ切りの反復練習を行い、同時並行して**「ハーベスタシミュレータトレーニング」**を行いました。ハーベスタシミュレータは、七月末のインターンシップを見据えて林業事業体で多く採用されているレバー操作に設定し直し、慣れるまで何度も練習しました。

「樹木学・樹木調査」講座では、主要な広葉樹の樹種判別に関する知識を、実物を見ながら習得しました。広葉樹の伐採や更新に関わる際に、より有利な採材や実生の選別を行えるようになることが期待されます。

七月二七日からの三日間、県内各地の林業事業体において**「インターンシップ」**を行いました。実際の業務を体験・見学し、職場の雰囲気を感じることで、研修生たちは自分の働く姿を具体的にイメージしやすくなったことでしょう。受け入れてくださった林業事業体の皆様に心から感謝申し上げます。

○研修生の感想　渡部大斗さん

私が林業に興味を持ち、林業アカデミーふくしまに入講したのは、林業を学べる高校に通っていたことがきっかけです。チェーンソーや刈払機を高校の実習を通して扱う中で、森林の中で作業する林業に興味・憧れを抱くようになっていました。そうして林業の道に進もうとしていたところ、林業アカデミーふくしまが開講されるということを知り、高校で学んだことを活かしつつ更に林業に関する知識や技術を高めるために入講することに決めました。

林業アカデミーふくしまに入講して三ヶ月が経ち、最初の頃は高校を出たばかりということをもあり不安でいっぱいでしたが、今は毎日が充実しています。今後も多くの知識・技術を研修で身に付け、将来林業の職に就いた時に役に立てるように頑張っていきたいです。

ロープ高所作業特別教育の様子

下刈り実習の様子

枝払い練習の様子

普及指導員通信

花粉の少ない森林づくり事業への取組について

福島県県中農林事務所
林業普及指導員　平　塚　真　基

１　はじめに

建材用材として加工しやすく美しさのあるスギは日本全国に分布し、屋久スギや秋田スギ、吉野スギなど、様々なブランドが存在し、奈良の法隆寺をはじめ数多くの歴史的木造建築物にも使われるなど、古くから利用されています。

戦後拡大造林により大面積に植栽されたスギは大量の花粉を放出し、現代病とも言われる花粉症には日本人の多くの方が悩まされています。中でもスギ花粉は代表的なアレルゲンとして有名です。

近年は、日本各地で無花粉スギ、少花粉スギが開発され、それらの苗木も流通するようになりました。こうした中、福島県では、令和３年３月に改正された福島県林木育種基本計画において、令和22年度までに県内で生産されるスギ苗木の全てを花粉症対策に資する品種（特定母樹、少花粉等）とすることが示され、令和４年度中にスギ特定母樹の苗木約56万本を供給すべく取り組んでいるところです。

（特定母樹は、成長量が一般的なスギの1.5倍、花粉量が一般的なスギの半分以下の品種を、少花粉は、花粉生産量が一般的なスギの１％以下の品種をいいます。）

２　県中農林事務所管内の取組について

福島県では森林環境税を活用して「花粉が少ない森林づくり事業」を行っています。この事業では、福島県林業研究センターで生産された無花粉スギ、少花粉スギの苗木を、植樹祭や企業の森林づくりなどの住民参加型の森林づくり等に対し、無償で苗木を配布することで、県民参画の森林づくりを推進し、併せて花粉症対策苗木の普及を図るもので、県中農林事務所管内では、令和元年からの３年間で３団体に820本配布してきました。その中から、３年連続で少花粉スギを植栽した郡山市の活動についてご紹介します。

植栽状況（写真提供郡山市役所林業振興課）

郡山市では毎年市内の高篠山森林公園を会場に、森と生活に深いつながりがあることを、実際に森林公園で見て、触れて、調べて、体験してもらうため、小学３年生～６年生とその保護者を対象に、「こおりやまフォレストキッズクラブ」を開催しています。開催期間は５月から10月で年５回に分けて実施しており、５回目の開催時に県中農林事務所が提供した資料で少花粉スギの学習を行ったあと、参加の記念として１人１本ずつ少花粉スギの苗木を植栽しています。参加者からは毎回好評を得ており、「苗木が大きくなったら見に来たい。」といった感想も寄せられています。

植栽木現況（令和４年８月）

３　今後の普及について

今後も管内市町村の森林づくりイベントでのPRを展開するとともに、スギ特定母樹の苗木供給が本格的に始まることから、森林づくりイベントだけでなく、一般的な造林においても活用いただくよう市町村、森林組合に働きかけていきます。

なお、高篠山森林公園内の植栽箇所は気軽に行けるところなので、少花粉スギの生長状況などが気になる方は、是非一度足を運んでいただければと思います。

森連だより

「避難指示区域五森林組合協議会との意見交換会開催」ならびに「東京電力ＨＤ㈱福島第一原子力発電所視察」について

福島県森林組合連合会

はじめに、全国では、猛暑や豪雨などの異常気象からもたらされた災害が発生しており、県内においても、会津北部の地域で大雨による被害が報告されております。

災害に遭われたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。

さて、本県においては、平成二三年三月に発生した東日本大震災ならびに東京電力ＨＤ㈱福島第一原子力発電所事故から十一年が経過し、現在も発電所の廃炉作業が続いており、また、ＡＬＰＳ処理水の海洋放出に向けた準備作業が行われています。

当会は、去る八月一日、富岡町の双葉地方森林組合会議室において理事会を開催し、避難指示区域五森林組合協議会（以下、「五組合協議会」。）との意見交換会を実施しました。

五組合協議会は、避難指示区域を抱えた県内の双葉地方・飯舘村・相馬地方・福島県北・ふくしま中央の五つの組合が、森林再生に向けた連携体制の構築と相互間協力によって、管轄区域の森林の整備、人材育成等に取り組むことを目的として、平成二九年三月に設立されました。

国においては、昨年度から七年度までを、「第二期復興・創生期間」として位置づけ、森林・林業の再生に向けた更なる取組を推進することとなったことから、避難指示区域の実状と原子力発電所廃炉作業の現状について、認識の共有を図るため行ったものです。

五組合協議会からは、全組合長よりご意見をいただき、代表である秋元五組合協議会会長（双葉地方）からは、現在もなお、避難指示区域等において、放射性物質の影響が続き、入山もままならない森林がある実状、風評はなくなったと忘れられてしまうことへの懸念などの思いを伺いました。

当会役員からも、改めて、系統森林組合が手を携え、県内の林業者のみなさんとともに、福島の森林・林業の復興を目指すとの強い思いが発せられました。

当日、午後からは、「東京電力ＨＤ㈱福島第一原子力発電所視察」を行いました。

廃炉資料館での受付を済ませ、バスに乗って向かった先には、廃炉作業が進む、剥き出しの原子炉建屋、ＡＬＰＳ処理水施設等がならび、バスの中でも、空間線量が六〇μSv／ｈを超えました。

降車を許可された高台から見る一～四号機原子炉建屋外観俯瞰エリアは、いろいろな方々のご苦労があって、今日があること、風化させてはいけない、発信し続けることが重要であると改めて感じました。

視察を終え、被ばく線量を測定した時、「〇・〇二mSvで、これは、胃のＸ線検診一回の約二〇分の一の量」との説明がありました。

「レントゲン＞視察で受けた被ばく線量」でも、心の物差しで計った線量は、今も、「レントゲン＜視察で受けた被ばく線量」。

これが、「安全」と「安心」の違いではないでしょうか。

当会では、平成二九年度に選別機を入替導入、併せて放射性物質測定装置を設置し、消費者のみなさまの安全・安心の確保に努めておりますので、ぜひ、いわき木材流通センター（ＴＥＬ〇二四六―八九―二二八八）をご用命下さい。

（画像提供：東京電力HD㈱）

きのこセンターだより

ふくふくしめじの現場から
～菌回り順調です～

（公社）福島県森林・林業・緑化協会　きのこ振興センター

1．令和四年度ふくふくしめじ菌床の培養状況について

きのこ振興センターでは今年度も県オリジナル品種（品種登録出願中）であるふくふくしめじ（「ホンシメジH106号」の愛称）の菌床を製造しています。五月～六月に菌床を製造し空調施設内にて培養中ですが、現在のところ順調な菌回りであり、九月～十月に生産者の方々へ菌床を販売する予定です。福島県で開発されたふくふくしめじは、発生が環境や栽培方法に左右されやすく栽培に当たってはきめ細かな気配りが必要です。そのため、現在はほんしめじ栽培経験のある一部の生産者の方を対象に菌床を販売しているので出荷量が少なくより貴重となっていますが、十月～十一月頃に県内の直売所等で販売されますので、お見かけの際には是非ともお買い求めのうえご賞味ください。

今年度のふくふくしめじ菌床

昨年度発生したふくふくしめじ

ふくふくしめじの肉巻き定食

2．ふくふくしめじの肉巻き定食レシピの紹介

ふくふくしめじは、その栽培方法から野生のホンシメジと比較しても遜色のない美味しさで、うま味成分であるグルタミン酸とアスパラギン酸が多く含まれています。今回は、当センターが事務局を担当する福島県きのこ振興協議会が令和元年度に日本橋ふくしま館MIDETTEで提供し好評を得た「ふくふくしめじの肉巻き定食」のレシピをご紹介します。県産食材にこだわり、ふくふくしめじの歯ごたえやうま味をしっかりと活かした一品です。ふくふくしめじをご購入の折には、こちらのレシピを是非試してみてはいかがでしょうか。

ふくふくしめじは十月～十一月頃の季節限定で収穫できるきのこなので、消費者の目に出来るだけ長くとまるためには加工品の開発がとても有効となります。今後は、栽培の安定化により生産量を増やすと同時に、レシピ開発等によるPR販売や加工品の開発にも力を入れていきたいと思います。

●ふくふくしめじの肉巻き定食レシピ●

福結び
ふくふくしめじの肉巻き定食レシピ
（4～5人前）

肉巻き
材料
豚ももの薄切り…20枚
ふくふくしめじ…200g
片栗粉……60g
サラダ油…大さじ1
塩……適宜
合わせておく☆
正油……20g
酒……20g
みりん…20g
砂糖…4g
水…30g
作り方
①豚肉を広げ内側に軽く塩をふる
ふくふくしめじを10gづつ裂いておく
②しめじを肉で巻き片栗粉をまぶす
③フライパンに油をひき
②を焼色が付くまで焼き取り出す
④☆を煮立て③を入れ絡める

お吸い物
材料
ふくふくしめじ…65g
小松菜……20g
だし昆布（9cm位）…1枚
塩……4g
水……800g
作り方
①昆布に切り込みを入れ
水をはった鍋に入れ
ふくふくしめじも食べやすい
大きさに裂いて入れる
②弱火でじっくりと鍋ふちが
ふつふつするまで煮る（30分位）
③小松菜を下茹でし
3cmくらいに切っておく
④②が煮えたら塩で味を調え
器に盛り小松菜を入れる

和え物
材料
なめこ……100g
生きくらげ…50g
青パパイヤ…80g
塩……4g
合わせておく◎
味噌……25g
はちみつ…20g
すりゴマ…9g
作り方
①なめこは軽く洗いザルにあげ
生きくらげと皮をむいた
パパイヤは千切りにする
②鍋に水と塩を入れ
沸騰したら①を入れ
ふたたび沸騰したらザルに
あげて冷水で冷ます
③合わせた◎で和える

木の文化を育む㊷

奥会津の人と文化をつなぐ

（木工房ＭＥＧＵＲＯ）

郡山女子大学　生活科学科　建築デザイン専攻　准教授　阿　部　恵利子

○はじめに

日本有数の豪雪地帯である奥会津は、厳しい自然環境で育まれた生活文化が古くから息づいており、今もなお、大切に受け継がれています。古からの伝統文化の継承が難しくなってきている今日、それらを未来へと紡いでゆくために、地域の伝統文化を活かした地域づくりや人づくりが求められています。

○会津桐の魅力を発信

『木工房ＭＥＧＵＲＯ』（柳津町）は代表 目黒 照枝さんが木工製品の工房として設立し、今年で七年目を迎えます。三島町出身の目黒さんは、奥会津の森林や木材の良さを一人でも多くの方に知って欲しいとの強い想いから、地域の特用林産物である「会津桐」を材料とした木製玩具や日用品を製造販売しています。桐以外の木材も全て地元産材を使用し、県内外において木工体験等、ワークショップの木工指導も行っています。また、森林環境学習のプログラムを独自に請負、人々の森林への関心を喚起しながら、目の前の山や樹木を見つめなおし活用することの大切さや、奥会津で育まれた高品質の会津桐を中心に、地元産材や木製品の良さを多くの人々へ伝えています。

目黒さんは、木製玩具や木工教室を通じて、シニア世代の生涯教育や創造力・発想力が豊かな子ども達の成長を育み、日々木工に取り組むと共に、地域が活性化するイベントを主催し、てしごとの作り手や人々が集う地域づくりにも貢献しています。

○地域づくりと人づくり

目黒さんは二〇一七年五月より、任意団体「やないづ手づくり市実行委員会」を設立し、代表として「奥会津やないづ手づくり市」（以下、やないづ手づくり市）を主催しています。

二〇一九年秋、第六回やないづ手づくり市以降、コロナ禍のため通常規模での開催は中止となりましたが、昨年度より商店街の活性化を視野に入れ、開催方法や場所を一新し、柳津町内のあかべこ通り商店街の空き店舗を活用した「ミニマルシェ」を開催しています。三密を回避するコロナの感染対策として、また商店街も活性化し、大変好評を得ています。

手づくり市を通して町内外の多くの人々と交流できることから、「モノづくりを通して豊かな地域づくりの糧になれたら」と目黒さん。ミニマルシェでは、職場体験として地元中学生を受け入れ、木工アクセサリーキットの組み立てや宣伝・会場準備・販売・片付けなど一連の体験の機会を提供しています。目黒さんは「こうした経験を通して自分たちの未来を切り開く力を少しでも培ってもらいたい」と願っています。

○桐の卒業証書ホルダー

木工房ＭＥＧＵＲＯでは、地元の小学校や中学校を対象に会津桐の卒業証書ホルダーを製作しています。会津桐の柾目の板を使用し、レーザー加工にて刻字します。板と板をつなぐ製本テープは会津木綿の大名縞に両面テープを貼り付けた手づくりです。「桐の感触を大切なセレモニーで味わってもらえるのは非常に嬉しい限りです」と目黒さん。会津桐の花は柳津町の町花にもなっており、卒業生の未来にたくさんのエールを贈っています。

○シニアサークルワークショップ

多様な世代に作る楽しさを伝えたいという想いから、目黒さんは世代に合った木工制作キットを提案しています。三回目を迎えた柳津町の高齢者学級（月一回開催）のワークショップでは「桐のマスクスタンド」を制作しました。個包装の使い捨てマスクが三〇枚ほど収納できます。高齢者が短時間で簡単に制作できる「桐のマスクスタンド」キットは、組み立て・乾燥・仕上げまで所要時間一時間程度で完成します。

○まとめ

伝統文化を守り、未来へ繋いでゆく人づくり、地域づくりに貴方も取り組んでみませんか。

桐の卒業証書ホルダー

桐のマスクスタンド

木材市況

五月の原木市場への入荷量は、前月比一七パーセント減（前年比一九パーセント増）の二三、七八二立方メートルとなっている。

販売量は、前月比一七パーセント減（前年比一九パーセント増）の二三、七一九立方メートルとなっている。

六月の価格は弱含みとなっている。

素材の価格〈工場着価格〉（2022年６月15日現在）

（単位：㎥当り千円）

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	中通り地方 当月	中通り地方 前月差	会津地方 当月	会津地方 前月差	浜通り地方 当月	浜通り地方 前月差	県平均 当月	県平均 前月差
一般用材	小	5～9	4.00	並	スギ	10 (10～10)	0	(0～ 0)		11 (11～11)	0	10 (10～11)	0
		10～14		並	スギ	17 (17～17)	1	(0～ 0)		16 (14～18)	0	16 (14～18)	0
	中	14～22	3.00	並	スギ	18 (16～19)	1	15 (15～15)	△1	17 (16～18)	0	17 (15～19)	0
				並	ヒノキ	19 (19～19)	0	(0～ 0)		25 (21～30)	△1	23 (19～30)	0
			6.00	並	スギ	20 (17～22)	0	12 (12～12)	0	21 (21～21)	0	19 (12～22)	0
				並	ヒノキ	30 (30～30)	0	(0～ 0)		29 (29～29)	△1	30 (29～30)	0
		20～28	3.65	並	スギ	14 (13～16)	△1	14 (12～15)	0	15 (13～17)	0	14 (12～17)	△1
			4.00	並	スギ	14 (14～16)	△1	12 (12～12)	△1	15 (13～17)	0	14 (12～17)	0
				並	アカマツ	11 (10～12)	△3	(0～ 0)		11 (10～12)	0	11 (10～12)	△2
			1.80	並	アカマツ	11 (11～11)	△2	(0～ 0)		10 (9～10)	1	10 (9～11)	△1
外材	米材(定尺)	30以上	10.00	並	米ツガ	(0～ 0)		(0～ 0)		38 (38～38)	0	38 (38～38)	0
				並	米マツ	(0～ 0)		(0～ 0)		40 (40～40)	0	40 (40～40)	0
	北洋材(定尺)	28以下	3.80	並	エゾマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		35 (35～35)	0	35 (35～35)	0
			4.00	並	アカマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		35 (35～35)	0	35 (35～35)	0
				並	カラマツ	(0～ 0)		(0～ 0)		35 (35～35)	0	35 (35～35)	0
パルプ用材				並	マツ	7 (7～ 7)	0	(0～ 0)		(0～ 0)		7 (7～ 7)	0
				並	広葉樹	10 (10～10)	0	(0～ 0)		(0～ 0)		10 (10～10)	0

区分	形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	会津共販 当月	会津共販 前月差	いわき 当月	いわき 前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(0～ 0)		7 (6～ 8)	0
	13～14		並	カラマツ	(0～ 0)		8 (7～ 8)	0
	16以上		並	カラマツ	23 (23～24)		11 (10～11)	△1

注）１．前月差の△印は値下りを示す。
２．（ ）内は各地域の価格幅、（ ）外は各地域の平均的価格を示す。
３．一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
４．各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

ふくしま東西南北

「原町森林鉄道」を偲んで

相双農林事務所　武藤　司

林業福島六月号の巻頭記事から「国有林の森林鉄道が国鉄原町駅まで伸びていた」という内容を拝見し、「福島の森林鉄道ＷＥＢ史料室」を閲覧したところ、（別図のとおり）駅の隣にあった「原町貯木場」を起点に、北は飯舘村の蕨平地区、南は浪江町境の鉄山地区まで至り、本線だけで二三・七キロメートルにおよぶ一大森林鉄道網が掲載されていました。

今も原町駅前に立つと、当時の森林鉄道跡とみられる道路が駅前通りのやや南側から斜めに走っており、横川ダム方面に向かう県道に合流しています。

当時のことに詳しい方にお尋ねしたところ、以下のようなお話を伺いました。

○Ａ材木店社長（鉄道廃止時（昭和三四年）五歳～六歳）

鉄山から原ノ町駅までトロッコの軌道が通っており、軌道の両側には当社を含め多くの製材工場が並んでいた。（当時トラック等がないので）それぞれ森林軌道から各工場まで支線を引き込んで利用し、駅経由で首都圏などへ出荷していた。

○Ｂ製材所社長（鉄道廃止時十三歳位）

トロッコは頻繁に荷物を運んでいた。営林署は機動車、民間は（軌道を使って）馬で荷を引いていた。木材や薪、炭等林産物のほか、鉄鉱石、珪砂をガラス工場等へ運搬していた。

お二人のお話から、国有林の他にも、多くの民間工場等がインフラとして森林鉄道を利用していた事がわかります。トラック運搬が主流になる以前であり、「林道」として官民共に利用されていたようです。

なお、ｗｅｂ上で「原町森林鉄道」と検索すると、色々な人が旧森林鉄道跡を探索したサイトが複数ヒットし、ほぼ全線が探訪しつくされており、凄い読みごたえです。（恐るべし「鉄道」の力）一度覗いてみてください。

※出典：福島森林管理署「福島の森林鉄道WEB史料室」添付資料より転記

はなしのひろば

換　気

ここ二、三年の間「換気」を特に意識するようになった。エアコンで室内温度の調整中であっても、一日に何回となく窓をあける。人や車の動く気配や、節によっては、生暖かいあるいは冷たい空気が入ってくる。

真夏の朝、窓を開け放すと、樹齢二〇年の庭の桜の木から一斉に蝉の鳴き声が聞こえてくる。それだけで、もう朝から十分に暑い空気が感じられたのだが、お盆が過ぎた頃から、朝の風に少しずつ「涼」を感じるようになってきた。（ススキの若い穂が真っすぐ朝空に向かっているではないか…）

九月に入ると、残暑の風に「あっ、涼しい」とほっとする瞬間がある。（もう、夕方の風だ）仕事を終えて帰宅すると、家の中は、もうすでに、あの蒸しっとした空気ではなく、それなりに和らいでいる。窓を開けると、今度は音もなく夜の風だ。（なんて　心地よい）日脚が短くなってきて、開けた窓から暗さも忍び込んで来るが、蝉時雨がふっていた庭も、草の茂みから聞こえる虫の音に、少し「ほっ」としているように見える。こんな夕刻から夜への窓の時間、秋の始めだから、しばらく楽しめる。

私たちは、思いがけないことによって、様々な制約の中で暮らしている。時に息苦しくもなるが、窓を開けることで「そのまんま」の空気や風や、時に街も感じる。

それぞれの制約の中で、こんなセンサーをもつのも悪くない。

（都）

表紙の写真

「森林整備作業中」
第18回ふくしま森林・林業写真コンクール　入選
受賞者　佐藤　弘さん（西郷村）
撮影場所：西郷村
コメント：山林の樹木を伐採している所を撮影しました。

編集　福島県
発行　福島県内四森林管理署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
発行人　飯沼　隆（福島市中町五番一八号県林業会館内）
陽光社印刷株式会社　宏
（定価　一一〇円）

お知らせコーナー

○野生きのこに関する注意喚起について

野生きのこが発生する季節となりました。国が出荷を制限している市町村から採取された野生きのこは、出荷・販売・加工、飲食店などでの提供、無償譲渡、フリマアプリ等での販売を行うことができませんのでご注意ください。

また、一部市町村・品目では出荷が可能ですが、出荷前にモニタリング検査を行う必要がありますので、県農林事務所までご相談ください。

安全な野生きのこの流通を図るため、皆様のご協力をお願いします。

●野生きのこ出荷制限位置図

：出荷制限市町村
：出荷制限一部解除市町村
西会津町［ナメコ、ムキタケ、マイタケ、クリタケ］、三島町［マイタケ］、会津美里町［ムキタケ、ナメコ］、只見町［ナメコ、ムキタケ、クリタケ、マイタケ、ナラタケ、ブナハリタケ］、昭和村［ムキタケ、マイタケ、クリタケ、ナメコ］、会津若松市［ムキタケ、クリタケ］、柳津町［マイタケ］、県内全域（湯川村、金山町、南会津町、檜枝岐村を除く）
［県の定める出荷・検査方針に基づき検査し、管理されたマツタケ］

●連絡先一覧

事務所名	住所・連絡先
県北農林事務所（森林林業部）	福島市杉妻町２－16（福島県庁北庁舎５階）
	024-521-2632
県中農林事務所（森林林業部）	郡山市麓山一丁目１－１
	024-935-1367
県南農林事務所（森林林業部）	棚倉町大字関口字上志宝50－１
	0247-33-2123
会津農林事務所（森林林業部）	喜多方市松山町鳥見山字天神６－３
	0241-24-5734
南会津農林事務所（森林林業部）	南会津町田島字根小屋甲4277－１
	0241-62-5375
相双農林事務所（森林林業部）	南相馬市原町区錦町一丁目30
	0244-26-4305
富岡林業指導所	富岡町小浜553－２
	0240-23-6084
いわき農林事務所（森林林業部）	いわき市平字梅本15
	0246-24-6193

※最新情報は福島県林業振興課ホームページでご確認ください。
（https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055c/ringyo-monitoring.html）

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》
◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹
または最寄りの森林組合

For the future with forest

イワフジ工業株式会社

http://www.iwafuji.co.jp/

（ 仙台支店 ） 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699
（ 本社 ・ 工場 ） 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
（ 支　　店 ） 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中四国・九州

林業福島 九月号 通巻第六九七号
令和四年九月一日発行
（毎月一回一日発行）
監修 福島県農林水産部
編集発行人 飯沼 隆宏
発行所 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号 県林業会館内
定価 一一〇円（税込）
年間購読料 一、九八〇円（税・送料込）

いざという時、あなたの備えは万全ですか？
福島ミドリ安全の防災対策
企業防災のご提案
保管スペースのご提案
災害時のゴミ対策

その日を恐れるのではなく、その日に備える

福島ミドリ安全株式会社
代表取締役社長 白石昇央
【本社】〒963−8550 福島県郡山市桑野4−1−22
TEL.024−923−5178・FAX.024−923−5211
E-mail info@f-midorianzen.co.jp

ZENOAH®
人と共に 緑と共に

For Professional

BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

ZHM1550RR

刈幅：1500mm 出力：27.5kW

SR3100

破砕径：200mm 出力：18.4kW

For Professional

GZ3950EZ
排気量 39.1cc
／
GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ハスクバーナ・ゼノア㈱ 福島県代理店
(有) うねめ林業機械
TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1